

外国人との関わりから考える人権

守山南中学校三年 三上 明日香

「日本が世界でナンバーワンだ！」

「外国人差別って何が悪いの？」

最近私はSNSで、このような衝撃的なコメントを目にしました。冗談か真面目かはわかりませんが、世の中にはこんな信じられないことを述べる人がいるのだと、恐ろしくなりました。こんなコメントがある時点で、我が国の人権学習は完璧に行き届いていないことは明白であり、これは誰かの人権を軽く扱う空気を生み出す火種になりうると考えたからです。

最近、世界の国々の傾向として「自国ファースト」の動きが強まっています。日本でもこのことを訴える声が目立つようになり、外国人政策などについての議論も巻き起こっています。自分の国を大事にすることは良いことです。しかし私が懸念しているのは、それが「他国の文化や人々を下げること」とセットになる危険性が隠れていることです。

日本に住む外国人は年々増え、私の住む地域でも、外国から来て働く人々をよく見かけます。彼らは同じ町で同じように穏やかな日常を送っているのに、インターネット上では彼らに対する排他的な言葉も見られます。

さらに私が懸念しているのは、メディアがこの問題に対し与える影響です。冒頭に記した通り、SNSでは匿名で顔が見えないからこそ普通なら言わない、言ってはいけな暴言や、あまりにも極端すぎる主張、事実を捻じ曲げた投稿がたくさんあります。そして、

これらを鵜呑みにしてしまったり、軽率で無責任な発言を行ったりしている人が多くいると感じます。当然ながらこれはSNSだけの話ではなく、実際の社会にも影響を及ぼします。排外的な言葉は外国人を不安に陥れ、傷つけてしまうと同時に偏見や差別を助長し、彼らに実被害がもたらされることにつながる恐れがあると思います。私はその流れを見て「正しく知ること」こそが人権を守る土台になるのだと痛感しました。そこで私は、改善策と自分にもできることを考えました。

改善策としては、互いが分かり合うために努力することが挙げられます。自国以外の国に住んだり旅行したりする際は「郷に入っては郷に従え」という言葉通り、その国についてよく調べ、ある程度従わなければならないことを理解する必要があります。受け入れる側は様々な文化に対する知識を深めるべきだと思います。例えば、日本では特定の宗教を信仰しない人も多いために関心が薄く、学校でも詳しく習わないので知識が不十分です。

また、私は二か月後に開催予定の国際交流イベントを現在企画しており、参加フォームやポスター制作、材料調達や広報などを急ピッチで進めている最中です。外国人のゲストを迎えクイズとクラフト、クッキングなど多角的な交流を考えています。ほぼ一人での、かつ、初めてのこの挑戦は決して楽ではありませんが、人権や尊厳を守る社会は、私たち一人一人が差別や拒絶よりも、理解しようとする歩み寄りを選ぶことでしか創れないと思います。その当たり前を自らの行動で示し続けることが最重要ではないでしょうか。私はささやかな言葉や出会いでも、人の視野を広げられることを信じ、常に人権の意識を心に留めて日々を過ごしていきたいと思っています。